

3月26日に「第3回高森山でツツジを見よう会」 薄紫に染まる路、「健脚コース」新設

「高森山でツツジを見よう会」を3月26日(土)午前10時(9時半受付)から高森山で開催します。今年もコバノミツバツツジの群生で、薄紫色に染まる高森山を楽しんでいただきたいと思います=写真は前回の「見よう会」。

「ツツジを見よう会」はニュータウンの中央部に残る里山、高森山の魅力を広く知ってもらおうと「どんぐりs」の部会「魅力ある高森山公園をつくる会」が3年前から開催。春日井市と高蔵寺まちづくり会社から後援、「UR都
役員会から(2月19日)

●新型コロナの感染拡大でやむなく、定期総会が2年続きの書面決議となったが、今年は何とか開催したいと日程を協議しました。緊急事態宣言などない限り、5月22日(日)に開催することに決めました。感染対策をしっかりと、特別講演などのイベントは見送ります●2月19日に予定していた「どんぐりs カフェ ブラブラまつりのススメ~ブラブラしてラブラブのまちに~」の開催をコロナ禍で断念しました。まつりの提唱者の中部大学名誉教授・豊田洋一さんと出店経験者からお話を聞き、活気あるまちづくりのノウハウを学ぶ予定でした。コロナ感染の終息を期待して、6月18日(土)に延期することにしました。●監事で前理事長の藤城栄一さんと理事の山上薫さんから。今期限りで役員を退任したいとの申し出がありました。お二人とも草創期から「どんぐりs」を支えてくださった功労者。感謝しかありません。山上さんはもうしばらく「住まい相談」を担当していただきます。
(明賀 雄二)



市機構中部支社」の協力を頂いています。初回の2020年は32人が参加、昨年は138人と参加者が急増しました、

この催しは、参加者が少人数のグループに分かれて、樹木ガイドブックを見ながら散策。それぞれ動植物の生態に詳しいガイドがつき、草木の名や特徴、さえずっている小鳥などを解説します。コースを歩き終わったら、グラウンドで草木に巧みに隠れる動物(オモチャ)を探す「カモフラージュ」など自然を五感で楽しむネイチャーゲームを楽しんでもらいます。

散策するコースは、水道配水タンクわきの北登り口から頂上を経てテニスコートに近い東登り口間ですが、今回は南側の鞍部を通る「健脚コース」も新設します。

2022年度定期総会のお知らせ

2022年度の「高蔵寺どんぐりs定期総会」を以下の要領で開催いたします。

- 日時；5月22日(日) 13:30~16:00
- 開催場所；東部市民センター
会員の皆様のご出席をお願いします。

高蔵寺NTの明日を夢見て 前理事長・藤城 栄一

名古屋に転居して2年半、何とか続けたいと頑張ってきた「生き生き楽農会」（どんぐりsの部会）を今年限りで退会する決断をした。理由は、妻が後期高齢者になり、玉野の畑まで通う車の免許を返上せざるを得なくなったことによる。素晴らしい指導者と楽しい仲間との有機野菜づくりは、私共夫婦の生き甲斐だった。

名古屋で暮らしてみると、高蔵寺ニュータウン及び周辺の豊かな自然が、何と魅力的に見えることか。「どんぐりs」が発足して間もない頃、曾田理事長を中心にして、みんなで高蔵寺ニュータウンのマスタープラン「NECOガーデンシティ構想」（*ホームページ資料室に所収）をまとめた。残念ながら私共の力量不足から総論だけに終わってしまったが、その骨子はガーデンシティ＝田園都市、つまり都市と農村の良さを兼ね備えた“まち”を目指そうというもの

だった。

高蔵寺ニュータウン周辺には豊かな自然と田園が広がっている。そして今、高森山の整備、県有地周辺のハナモモ育樹等の活動が進みつつある。あの当時描いた未来像が実現する日を今も夢見ている。

住まい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください

☎080-5297-8956（長谷川）

面接相談会日:3月19日（土）4月16日（土）

（いずれも13:30~16:00）

会場；東部ほっとステーション

（サンマルシェ南館1階）

ハート・ほっと・ルーム

日時；3月27日（日）、4月24日（日）

（いずれも13:30~17:00）

会場；東部ほっとステーション

参加費；無料

連絡先；☎090-6330-4393(浪川)

私の朝・昼・晩

自分史年表

私は今年6月、82歳になる。10数年前から、これまでの人生を年表の形でまとめてみようと思っていた。それまでは忙しく目の前のことに夢中で取り組む人生であったが、最近折に触れて、過去を見つめることも多くなった。

ところが、記憶力はどんどん衰えて、何かにつけ、思い出すのに苦労する。元来私は物事を表に整理して考える癖があった。趣味と言ってもいいかもしれない。

私の身の周りの過去の出来事は、写真、手帳、予定表、日記など、さまざまな形で記録されて残っている。だがそれらは断片的で、一覧性がなく、相互の関連性が分からない。そこでそれらを検索しやすいように整理してまとめ、さらにその時々の社会の動きとの関連性をも見るには、年表形式が最も適している

と思ったのである。

実は50歳代後半にもこのようなことを考え、手書きでA4判の表を用意し、暇を見て事柄を記入していたのだが、途中で中断してしまっていた。今はパソコンが使えるようになり、格段に楽になった。表は横軸を時間軸とし、縦軸は社会の動き、家族・自分の年齢と出来事、仕事欄などとする。いつでも思いついた時に参照したり、新たな書き込みをしたりできる。ざっと年表ができたなら、見直しや修正は簡単である。並行して記憶に残るエピソードは別紙に書き出していく。

自分史を書くのは、第一には自分のため、自分の存在確認のためだと思うが、次には家族や子孫のためでもある。家族（子孫）に自分がどんな人物であったかを知ってもらうためである。なお関連して家系図作成にも挑戦している。

（山上 薫）